

林大だより



第 80 号 令和 2 年 10 月 26 日

長野県林業大学校翌校友会



2 学年 6 月 山の環境学（上高地）



1 学年 6 月 学校近くで初夏の日の下



1 学年 7 月 林業概論（木祖村水木沢天然林）

翌 松 会

翌松会 会長 相馬 飛雄一



今年度会長に選任されました相馬です。よろしく願います。地元に住む唯一の者として断る訳にいかなかったというのが現実です。重責にプレッシャーを感じていますが、丸山校長、上條先生をはじめ先生方、昨年から代議員を務めていただいている役員の方、今年度新しく役員になりました副会長をはじめ代議員の方など皆様のお力をお借りしながら運営にあたりたいと思います。ご協力よろしくお願いたします。

翌松という文字からして木曾五木のうちの二つの、あすなろ・ひのきから命名されたのかなと想像します。木曾に生まれ育って長いですが林業に関わる事もなく山にある木を見ても見分けがつかない私でも、あすなろには明日はひ



1 学年 6 月 入学式

のきになろうという意味があるのは知っています。ひのきは昔「ひのき一本首一本」と言われる高価な物で現在も「木曾ひのき」とブランドになる建築用材として最良の木として広く知られています。林業大学校らしいすばらしいネーミングと感じしました。

さて新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため四十期生の卒業式も保護者は出席できず、卒業式終了後の翌松会主催の謝恩会も中止となりました。その後も入学式が延期になったり翌松会の総会も中止

になり、議案の書面議決になるという異例の方法となりました。入寮も遅れ、県外出身の入寮生は指定宿泊施設での健康観察を行った後の入寮となったのに伴いオンライン授業となるなど影響も大きいです。オーストリア研修の中止

をはじめ、例年行ってきた校外での授業や行事への参加も厳しいようです。

最後に本会は、「保護者相互間を密にし、大学校と協力して、教育の発展に資することを目的とする。」とあります。よろしく願っています。

格 好 が い い

長野県林業大学校 校長 丸山 勝規



この度、四月一日付けで校長を拝命いたしました。教育分野の職場は初めてであり、志を持った若者に日々接することは身が引き締まる思いです。

人生の多感な時期を林大で過ごす若者たちには、自分を成長させるチャンスを得たと考えて欲しいと思います。本校がある木曾谷は、豊かな森林と清らかな水や空気はもちろんのこと、林業・木材業を生業とする人々、里山の暮ら

しで地域おこしをしている人たちなど、多様な人材にも恵まれている地域です。学生には本校を目指した「志」を忘れず、自ら進んで、「関わり」を求めて欲しいと思います。

この時期、この土地でなければ出来ない体験が待っているはずです。寮生活を中心とした二年間は、友と、先輩と、先生や地域の人たちと語り、一日一日を大切に過ごしていただきたいと思っています。

本年はコロナ禍での六月から始まった「新たな生活様式」を踏まえた授業や寮生活、七月の大雨特別警報発令など半年の間に様々な出来事がありました。三十八名の学生が安全で健康な大学校を

送れるよう教職員一丸となって学校運営に努めてまいります。

さて、先日、ある二年生が自分の道具の整備と併せて私の鉋を研いでくれました。恥ずかしながら無精していたので錆付いていたのですが、その鉋が切れ味鋭い道具に生まれ変わっていました。学校林の林道の見回りの際に腰に着けて歩き、視界を遮る枝葉を誠に切れ味良く切り落とすことが出来ました。道具の性能が十分に発揮された仕事は楽しいとつくづく感じました。

人間が自然と上手に付き合っていくには、「みる」、「きく」、「さわる」、「きる」、「かく」、「とぐ」など、基本的な所作が大切だと考えます。どんなに世の中がIT化、機械化しても人間の技の大切さは変わらないと思います。

この二年生が「とぐ」行為に集中していた姿はとても格好がよかったそうです。

本校の授業を通じて、各分野のエキスパートによる優れた講師陣から自らの判断の基となる知識を学び、実習で基本的な動作を身に付けて、是非「格好いい人」になってほしいと思っています。

日本の林業のため、ともに取り組もう

中部森林管理局長 吉村 洋



長野県林業大学校の学生の皆さんは、勉強や仲間との交流など充実した日々を過ごされていることと思います。

他方で、今年も「これまで経験したことのない大雨」によって、全国各地ですさまじい自然災害が発生し、皆さんの身近にある木曽川もあわや氾濫寸前にまで至りました。

その後も、記録的な猛暑に見舞われる中、いまだ拡大が続く新型コロナウイルス感染症への対策が必要となるなど、皆さんの学生生活には厳しい、辛い側面も多々あることと思います。

中でも新型コロナウイルス感染症による我が国経済社会への影響は深刻で、戦後最大の危機とも言われています。林業として例外ではありません。

ん。

しかし、私たちはこの状況に甘んじているわけにはいきません。

社会全体が大きく変容する中、新しい世の中においても木材をしっかりと使ってもらえるように需要を開拓し、それによって山の手入れを進めなければなりません。

なぜなら、山の手入れによってもたらされる森林の公益的機能は、我々がこの国土に住み続ける限り不変の価値があるからです。

このためには皆さんの力が必要です。

皆さんの一番の武器は若さと情熱、そして長野県林業大学校という素晴らしい環境で培った優れた知識や技術です。困難な道を進むほど大きなやり甲斐があるでしょう。

皆さんとともに日本の林業のために取り組める日を楽しみにしています。

長野県林業大学校学生の皆さんを心から応援しています。

現場のすゝめ

栗山木工有限会社 代表取締役 栗山 弘忠



曾祖父が良質な天然木を求めて、木曽の地にたどり着いたのが大正の始め。以降、百年以上の長い歴史の中、私たちは木曽の森林からたくさん恵みを頂戴し、善光寺に代表されるような重要文化財建造物の修理を底辺から支え続けて参りました。

当家は古くから「へぎ屋」を生業とし、藩のお抱え職人でもあったという話を先代から伺っています。江戸時代の「国替え」によって、職人も藩主と共に全国を移動していたと言われています。私で七代目だそうですが、当家は栃木県をルーツとし、その後三重県桑名から名古屋に出て、木曽川を北上し、この地に辿り着いたとのこと。

さて、同じように長い歴史を誇る林業大学校のお付き

か改善されません。加えて、世界規模で提唱される森林の保護活動は、我々の仕事にも影響を与え始めています。

皆さんにお願いがあります。林業が抱える問題点を提唱し、その解決を図るのであれば、先ずは「現場」に出てください。私たちが扱う木材は「生き物」です。理論や方法論は大切です。ただ、それを語る前に、現場に根付いた知識や経験、そして多くの汗を肌で感じてください。

今後、人口が減少することと生産人口が減少していくことは周知の事実です。森を守るために必要なのは、「現場に生きる人」を増やすこと。監理する者も「共に手を動かして、汗を流すこと」。情報システムの活用や高度林業機械の導入、川上から川下までの一貫した生産管理などなど、聞こえのよい言葉ばかりが流布していますが、これを支えるのも「現場びと」なのです。仕事を始めて二十年。木を語るにはまだまだ未熟な私が気付いたこと。「現場にまさる知恵はない」。皆さんのご活躍を心からお祈りしています。

学生の
ページ

あす
なる
の
眩

つぶやき

学校・寮生活から

林業大学校に 入学して



1 学年
梅本 倫仁

す。勉強の部分でも最初は一
般教科等についていけるかと
思っていました。分らない
部分などは同級生や先生、
先輩に教えてもらいながら勉
強しています。専門教科に対
して、私は高校の時林業科
だったので、少しは経験があ
りました。高校の時とは違
い、実技実習でもより深く、

長野県林業大学校に入学し
て、早くも二ヶ月が
過ぎました。五月の
下旬からオンライン
授業が始まりました
が、モニター越しで
しか顔を見ることが
できず、どんな同級
生が来るのか、どん
な先輩方が居るの
か、仲良くやってい
けるかなど不安が沢
山あったことを覚え
ています。

実際に林大生活が
始まり、今では同級
生や先輩方と毎日を
楽しく過ごしていま



1 学年 6 月 城山登山

林大での生活



1 学年
坂口 達哉

安全に学んでいます。
林大での経験は将来絶対に
役に立つと思います。これか
らの林大生活に悔いの残らな
いよう、様々な知識と技術を
吸収し、自分の糧となるよう
頑張っていきたいです。

いろんなものが初めての生
活でした。まず寮で暮らすの
が初だったので一つの部屋に
四人が生活しているというも
のになかなか慣れなくて、今
もあまり慣れてない状態で
す。また休日の際は自分でご
飯を用意するのもいままでと
違い大変でした。住む環境も
大きく変わりました。北海道
と比べ、とても山がちな地形
で、気温と湿度が高くて、慣
れるまで半年くらいかかりそ
うです。初めての梅雨も経験
しました。こんなに連続して
雨が降ることにとっても驚きま
した。植生や見たことない昆

虫などがいてとて
も新鮮でした。ま
た長野県にある山
に登ってみたいで
す。北海道の山と
比べて標高が高
く、高山植物の種
類もちがうのでい
ろいろな山に挑戦
してみたいと思っ
ました。おそらく
自分の人生でこれ
が一番長く北海道
から離れることにな
るので、この二
年間でここでしか
学べないことを学
んでいきたいと思
いました。まずは
この生活に慣れる
ように頑張ってい
きたいと思います。

寮生活を 振り返ってみて



1 学年
茅野 あすか

寮生活をしてから二か月が
経ちました。私は最初、林業



1 学年 7 月 測樹学

大学校に入学したのころ、
寮生活や勉強の事について不
安が沢山ありました。女子寮
の先輩たちは、色々なアドバ
イスをしてくれるとても優し
い先輩です。残り半年で先輩
とお別れになってしまおうの
は、とても寂しいです。来年
は、私たちも先輩という立場
になるので、将来に向けての
準備を一年生のうちからやり



1 学年 7 月 体験研修（ほうば巻づくり）



1 学年 9 月 林業概論（赤沢美林）

たいと思っています。まだ、わからない所もあると思いますが、困ったら、先輩や、先生等を頼ったりして将来に向けていきたいと思っています。まだ一年半寮生活が残っているのですが、そこでもまだ知らない事を学んでいきたいと思っています。寮生活をしている事で違いも起こりますが話せばわかる事もあるので、話す事は大事だと思います。これからの寮生活をしていく中で大切な事を忘れずに有意義に寮生活を送ってきたいと思います。



1 学年 星野 裕太

林大生となつて

長野県林業大学校に入學して早々二カ月が経とうとしています。ようやく生活にも慣れました。木曾は、自然が多く林業及びそれに関係する勉強がこれでもかというくらいできます。林業に関する基礎の勉強はもちろん、チェン

ソーを使ったり、実際に山に行き樹木を見て覚えたりと目まぐるしく毎日が過ぎていきます。自分は、長野県林業大学校のことを「自分を高めていく上で最高の場所」であると思っています。具体的には、全寮制で四人一部屋の集団生活、一学年が二十人という少人数での内容が濃い実習、林業に関する各部門を極めた講師の先生方の講義が挙げられます。そして、木曾には若者が遊ぶ娯楽施設がありません。これは、普通の大学生からしたらデメリットですが、私にとって



1 学年 横澤 諒

筋トレを 続けてみて

私はコロナの自粛期間中から筋トレを始めました。なので、五か月近く筋トレをしていることになりました。筋トレを始めた理由は、高校時代の部活が終わってから運動をあまりせず肥満気味になっていたことで健康に気を遣うようになったからです。最初、家で始めたところは腕立ても腹筋

は自分を高める上で大きなメリットです。流石に私も遊びに出かけたいとは思いますが、木曾を出ないと思えばいいので、遊びたい思いが抑止されます。その分、寮で勉強や運動を申し分なくすることが出来ます。



1 学年 8 月 トップガン研修

も単純な筋トレだけで疲れていましたが、今は本格的なトレーニングに挑戦中です。それだけではなく、最近では減量にも取り組んでいます。体重を落とすと言うよりは無駄な脂肪を落として筋肉を目立たせるために行っています。寮母さんの美味しいご飯を我慢するのは大変ですが理想の体を手に入れたら心行くまで食べたいと思います。筋肉は林大に来てチェーンソーを使うときにも大変重要です。私は林大でチェーンソーの技術を高めたいと思っているのでこれから筋トレを続けていきたいと思っています。

長野県林業大学校へ入学して二年目になりました。今年はコロナの影響もあり授業日程の変更や自分の実家が千葉にあることも重なり一年生と顔合わせをするまで時間がかかってしまいました。そんな中でも一年生と楽しく寮生活を送れているのは今年の一年生が優しく真面目であること、そして職員の方々が気を配り寮生活のアドバイスをしてくれているからではないかと考



2学年 6月 林業架線学（ワイヤー実習）



2学年 大澤 雄太郎

長野県林業大学校で
迎える二年目

え日々感謝して生活しています。今年から始まった授業はより専門的で去年得た知識を絞り出さなければついていけなくなってきました。これから去年のようにだらだらと過ごすのではなく、一秒一秒を大切にに残り少ない時間を引き締めて過ごしていきたいように頑張っていきたいと思います。

長野林大に行きたい、と伝えた際の両親の表情を、私は見る事ができませんでした。高校を卒業後に就職をする、と息巻いていたので、まさか、高校三年生の夏に進路を変えるとは思っていなかったと思います。両親に伝えただけ、最後は自分のしたいことをすればいいと背中を押してくれました。普段はどうしても気恥ずかしくて、「ありがとう」と面と向かって言うことができませんが、常に自分を応援してくれている両親には感謝しています。一年とちょっと月日が過ぎました。思い出せば、長野林大の入学式前や当初は不安と心配、緊張でよく胃が痛んでいましたが、過ごしていくうちにそれもなくなつたように思います。私は、要領のいい頭ではないですが、自分なり



2学年 久保畠 七彩

振り返って

に理解し、できるよう、勉強に多少なりとも励んでいると思います。アルバイトを通じてお金を稼ぐ大変さを学び、学校や寮生活では人との付き

合い方を学びました。寮生活はそれなりに楽しいです。これから「学ぶ」ということを大切に、後期の時間を過ごしていきたいです。



2学年 7月 車両系建設機械技能講習

長野県林業大学校に
入学して2学年
佐野 晃祐

私が林業大学校に入学して一年と半年が経とうとしています。これまで林大で生活してよかったと思うことは、寮生活です。林大の寮は学校から近いので登校時間がほとんどなく、その時間を有効活用することが出来ます。私は高校時代、四十分かけて登校していたので、その時間が無くなると考えると寮が学校に近いというだけでどれだけいいことなのかよく分かんと思います。また、林大は全寮制で休日を除いて全ての学生が同じ寮で生活しているので、毎日楽しく、勉強面で分らないところがあればすぐに教えてもらったり、逆に分からない人に教えてあげられたりするの寮生活の利点だと思います。入寮する前はプライバシーの空間が少なく不安でしたが、今では楽しく寮生活を送っています。そんな寮生

活もあと半年で終わってしまいます。悔いの残らないよう生活していきたいです。

長野県
林業大学校の魅力2学年
篠本 悠太

私が長野県林業大学校に入学して早くも一年と半年が経ちます。私が思う

林業大学校の魅力の一つを紹介したいと思います。林業大学校は設立してから四十二年と全国の森林・林業学校と比べても歴史のある学校です。県内の林業地や事業体を見て回る実習でも、林業大学校出身の方々が多く、県内の森林・林業は林業大学校の卒業生によって支えられています。林業大学校の



8月 特別な夏季休暇

繋がりといいものは、中々の魅力なのではないかと思っています。県外へ就職した卒業生の繋がりに利用すれば、各地の情報も共有することが可能です。この繋がりによってしがらみを感じる部分もあります。が、上手く利用すれば卒業後の大きな力になると思っています。他にも魅力はあると思いますが、私の思う長野県林業大学校の魅力の一部を紹介しました。

寮に入って思うこと

2学年
森川 貴仁

私がこの林業大学校に入学して一年と数か月がたった。たったの一年と数か月だがこの学校の寮での日々は私の人生にとってとても意味のあるものだと思う。

まずは素晴らしい友人たちに出会えた。ここで出会った友人たちは各々個性にあふれていて良くも悪くも私に様々な影響を与えてくれた。二十四時間ともに遊び、時には喧嘩やトラブルを起こしながら過ごした。この学校での友人たちとの思い出は私の人生にとって大きなものになるだろう。

先輩、後輩との出会いも大きかった。私は今までの人生で上下の人間関係を築



2学年 9月 森林風致計画学（オンライン授業）

いたことがなかった。そんなこともあり先輩や後輩とかかわることがとても新鮮で刺激になった。この経験が将来の人間関係でも生きていくのだろう。

この学校の寮生活で私は多くのことを学び、経験した。残りの数か月にもたくさんのかことを学ぼう。そんな学校に入れてくれた両親と先生方、こんな私を受け入れてくれる友人たちに感謝して残りの少ない日々を過ごそうと思う。

保護者の
ページ絵
の
一
言

多くの経験を!!

北原 安男



入学後、早くも数ヶ月過ぎました。高校での進路相談時林業大学校への進学を希望した時は驚いたものでした。本人に「何故?」と聞くと、「将来を見据えていろいろ考えて。」と言いました。本人の希望もあり、親元を離れる事もいい経験になると思いましたが。最初は寮生活等できるかな?と思うくらいに、本人自身が心配していましたが、そんな心配も何処吹く風?電話等で話すと、楽しんでる様子、学校生活が充実している様子がわかりました。長野県は森林に囲まれて産業も育まれて来ました。私自身、森林産業の現状がわかっていませ

んが息子がいろいろと現在の林業の事を話してくれます。又、この数ヶ月で頑張っている息子に驚きました。二年間という短い学生生活ではありますが、先生方、先輩方の指導を頂き、友達と学び、今後成長していく事を楽しみにしています。

息子、頑張れ

橘 文子



息子が林大生となり早いもので半年がたちました。不安ばかりで始まった学校生活。コロナの影響で入学式が延期、延期で六月に入り子ども達だけの入学式。でも入学式の写真を見て無事に出来たとホッとしました。

息子と私達家族は初めてづ

くしの春でした。初めての大学生生活、初めての寮生活、親から離れて大丈夫かと思いましたが蓋を開けてみたら息子は毎日楽しく充実した生活を送っているようでとても安心しました。良い先生と、良い先輩、良い友達に囲まれてとても幸せものだと思います。地元にいればこんな経験出来なかったと思います。二年制なので、一日一日がとても早く感じると思います。これからも貴重な経験をして社会に出て林業に貢献出来るように頑張つてほしいです。くれぐれもケガや病気に気をつけて楽しく充実した学生生活を送ってほしいです。息子。頑張れ。

初心を忘れずに

阪野 義平



高校進学時より林業へ進むと決めていた我が息子。本来

であれば四月からの入学予定が、いまだ猛威をふるっているコロナウィルスにより延期。しかし無事六月には入学出来、ひと安心。親馬鹿と言われてしまうかも知れませんが、親元から離れた寮生活も先生方のご指導により無事過ごしているかと思う日々。現代はSNSで直ぐにやり取り出来、安否もわかりますが、子ども扱いもそろそろ卒業しないといけませんね。

さて肝心の学生生活は学校の連絡網、オクレンジャーには感謝しています。又本人もSNSの背景を度々変えてくれるので楽しく過ごしている様子が伺えます。恐らく二年の月日もあつという間に過ぎ



寮 生 活

てしまうと思われませんが、自分の信念を貫き通して社会貢献してもらいたいと思います。ここ最近では異常気象による災害も多発、山の保水力が劣えているのも要因だと指摘されています。災害に強い山作り尽力してもらいたいと思います。「俺はきこりになる」という初心を忘れずに頑張つて。



特別講座（キノコの見分け方講習）

来た時に楽しんでるうちに学校の様子を見ている姿を見て馴染んでいくようにしてほしいとしました。これからの学校生活は大変な事が多いと思いますが、先輩方から学び友人と楽しく充実した学びの場所を作っていただくと願っています。

林業大学校に

行く息子に

村田 真理子



高校一年生の初めての進路相談の時「林業関係の仕事に

就きたい。」と言った息子にびっくりしました。子どもの時に見た林業の映画がきっかけで気になっているのは知っていました。本気だったのかと初めて知りました。まったく畑の違う商業科から受かるのか心配でしたが、なんとか無事合格でき大喜びしました。今年はコロナウィルスの影響でいろんな行事が中止となり残念な事が多かったけれど、入寮式での様子や帰って来た時に楽しんでるうちに学校の様子を見ている姿を見て馴染んでいくようにしてほしいとしました。

成長

浅川 庸子



「林業を学びたい！」と息子が言ったのは中学三年生の時でした。幼少期から自然の中が大好きで、一人でもキャンプに参加していた息子が林業専科のある木曽青峰高等学校のオープンキャンパスで目を輝かせました。高校三年間を通して、さらに知識・技術を深めたいと林業大学校への進学をさせていただきました。今では、寮生活も五年となり、マイペースで生活している息子がかえって心配になっていきます。昨年の木曽祭で初めて伐木を見学し、息子の真剣な顔、伐倒方向を確認する姿が、とてもかっこよく、別人

きで、一人でもキャンプに参加していた息子が林業専科のある木曽青峰高等学校のオープンキャンパスで目を輝かせました。高校三年間を通して、さらに知識・技術を深めたいと林業大学校への進学をさせていただきました。今では、寮生活も五年となり、マイペースで生活している息子がかえって心配になっていきます。昨年の木曽祭で初めて伐木を見学し、息子の真剣な顔、伐倒方向を確認する姿が、とてもかっこよく、別人

のようで成長を感じ、とても感動しました。今年、コロナの影響でオーストリア研修がなくなり、残念な気持ちはありますが、この二年間木曽という自然豊かな場所で、先生を始め、寮母さん、同級生の皆様に恵まれたことが、今後の人生の財産になったと思います。残りの学生生活を楽しくかつ、真剣に皆さんと過ごしてほしいです。「がんばれ！」

国難を乗り越え

桶川 泰晴



令和二年は国難とも言える大変な年になってしまいました。年頭にあたり私は子ども達に「今年は米国と中国が覇権を賭けて通商・先端分野・人

権問題等多面で争う影響から世界中で経済が悪くなる。経済が悪くなると就職や進学にも悪影響が出るので悔いがない様に準備して欲しい」という旨を伝えました。

八月現在、米中関係は日々悪化し、経済に大きく影響を及ぼしていますが、米中問題に匹敵するかもしれない感染力が強く特効薬が無い感染症という災厄に見舞われています。

林大生諸君も奥国研修が中止になる等多大な影響と困難に直面していると思います。しかしながら、諸君は地に足

が着いた学問をされており、その学問を修得した諸君を多方面の事業体が必要とするでしょう。又、ここで同じ釜の飯を食った絆と経験は、これから度々起こる困難を乗り越える力になる筈です。頑張れ林大生諸君。君達の未来は明るい。



コロナ禍でも

小池 順



現代ビジネスの記事に、「日本の林業崩壊が止まらない…救世主を目指すスゴい会社の正体」という記事があり

ました。子どもが林大に行くようになってからこのような記事を興味を持って見るようになり、近年の林業の現況にも興味を持てるようになりました。現在林業の状況は厳しくなる一方ですが、記事の会社のような光も見えてきたと思います。

またブームになり始めたキャンプやアウトドアの影響で、個人で山を買うことへの関心が高まってきているようです。特にコロナ禍の今年は環境の変化も背景にあり、山

年生・一年生はコロナ世代として話題にのぼると思います。が、それを逆手に取った活躍ができるものと信じています。

私の子どもの林大生活もあと数か月となり、親としても二人の子どもを林大で勉強させることができたことは感慨深く思います。

とにかく二〇二〇年は大変な年ですが、知恵を出し合いながら最後の学生生活を楽しんでほしいと思います。

林大から学ぶ

三浦 正悦



高校三年の夏、息子が持ってきたのは林大のパンフレットのコピーでした。なぜ長野？なぜ林業？小さな頃からキャンプをしたり川で遊んだり、自然と触れ合うことが多かったとはいえ、まさかの選択に驚きました。

オープンキャンパスで訪れた林大は雄大な山々に囲まれ、地元秋田とは全く違う雰囲気、圧倒される思いでした。歴史を感じる校舎や寮、案内をしてくださった先生や先輩の話に魅了されている息子の様子を見て背中を押す決意をしました。

見知らぬ土

地での寮生活に親子共に不安でしたが、帰省する度に自信と充実感に満ちた顔を見せ、たくましく成長していく姿に林大での経験が息子の人生にとってかけがえのないものとなっていることを感じ、うれしく思いました。

最近はおもっぱら登山にのめり込んでいます。またしても心配の日々ですが、卒業まで残り半年、たくさん思い出をつくり、学校、先生、友人、山々からたくさんこの



7月 地域貢献（道路アダプト）

とを学び、知識を深め、社会人としての一步を踏み出す時に胸を張れるよう悔いのない毎日を送ってほしいです。



新型コロナ対策（手洗い講習）



林大では林業研修で様々な場所に行きますが、その中でも最大行事のオーストリア研修が変更になったことはとても残念でした。しかし、長い林大の歴史の中に明確な足あとを残してくれるものと期待しています。

また今年の二

林大生から 社会人三年生



林野庁中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター
岡本 昂大

私が林大を三十八期として卒業してから二年とちよっとの月日が経ちました。

林大生活と同じ月日を社会人として過ごしましたが、や

技術の継承



教授
下澤 幸典

私が林業大学校にお世話になり早いもので四年目に突入いたしました。それまでの公務員生活では林道や治山施設の整備、鳥獣被害対策などの業務をしており林大生がインターンシップに来た時には現

はりあつという間に時間が経った様に感じます。今までの生活と大きく変わった社会人生活では、二年間の林大生活での経験に助けられることが数多くありました。

最初の配属先は、地元から遠く離れた木曽によく似た岐阜県飛騨のとある町。友達も知り合いもない、人間関係がゼロからスタートする環境でした。不安や寂しい気持ちもありましたが、林大での寮生活も最初はそうだったと思

檜のアドバイス

場に連れて行き説明をしたりする機会がありました。学生の皆さんが熱心に質問してメモを取る姿が印象に残っています。

しかし、その私が林大に来ての印象は「よく寝る林大生」です。外部講師の校外研修の引率で学生を連れて行く機会が多く毎回マイクロバスに乗ると五分も経っていないのに寝ている学生がほとんどです。その貯金されたパワー

い返し、「また知り合いを増やせる良い機会が巡ってきた！」とポジティブに新生活に望むことができました。最初の頃は一日の仕事が終わればクタクタになり、体にも心にも大きな負担がかかりましたが、別の場所と同じように頑張っている林大の同期や先輩と連絡を取って励まし合い乗り越えられました。林大生同士の深い絆が何度も自分を助けてくれました。

も、趣味を通して多くの人と仲良くなり、次第に馴染むことができました。一人暮らしの最中、手をさしのべてくれる存在が近くにいてくれることはとてもありがたく、林大生と木曽の地域の皆様との支え合いの大切さを痛感しました。

「どんなことでも昨日の自分に教えられること

ました。年二回のトップガン研修やJLCC（日本伐木チャンピオンシップ）へのサポートなどにより、二〇一八年には三十九期の学生二人が第三回JLCCに参戦しジュニアクラスで二位と三位の快挙を果たしました。このJLCCではチェーンソー技術の正確性・速さ・安全性を競い、今年も第四回大会に四十一期の二名が参戦の予定でしたが残念ながら新型コロナウィルス感染拡大により中止となってしまいました。放

は放課後に使われていたのだと思います。放課後に学生達とは、バイトに行く、筋トレをする、キャッチボールをして職員の車にボールを当てるなどありますが、中でもチェーンソーが大好きな学生達（通称・伐倒チーム）は放課後に自主練習をしています。

課後には二年生のJLCCメンバーを中心とした伐倒チームが競技の練習をしています。時には先生となって一年生に技術の継承が行われています。

があれば、それは成長している証」。この言葉は何度も自分を励ましてくれました。

林大生活には楽しみだけでなく悩みや辛いこともありましたが、そうした苦労の経験もいつか自分を助けてくれる大きな力になります。そして、仲間と笑って分かち合える素晴らしい思い出になっていきます。

「二年間はあつという間」はよく聞く言葉だと思いますが、その二年間のすべての出来事を大切に皆様ならでは林大生活を楽しんでいくください！

残念ながら林業の現場では他の産業よりも毎年多くの労働災害が発生しています。林大生の皆さんにはチェーンソーの技術や安全意識をしっかり身につけて卒業し、防災ゼロを目指す中心となってもらいたいと思います。また、放課後の時間も有意義に過ごしてください。



2 学年 10 月 山の環境学 (木曽駒ヶ岳)

編集後記

林業大学校が開校された頃に県職員となって約四十年。三回目のこの地での勤務が林業大学校だったことは、何かの暗示なのか、それとも若い学生たちと共に過ごすことで時代の変化を感じることが出来るようにとの神様の思し召しなのか。そんなことを考えているうちに半年が過ぎ去ってしまい、既に来年度に向けての入学試験のことも話題になる季節となってしまうとした。

最近、環境問題に対する関心から本校に入学してくる学生もいて、「林業」という言葉の持つ意味が私のような昔の人間では思い及ばない、とても重要な世界への入り口を指す言葉になっているのではないかとさえ思ってしまう。特に、森林を守り育てるということがどれほど重要なのか、単に木を伐り、消費するという目の前に見えていた事柄だけではなく、山に手を入れ、育てていくことが何処に繋がっているのか、今更にはありますがしっかり考えてみることも必要なことなのではないでしょうか。

また、先日読んだ科学雑誌の記事の中で、地球温暖化によりシベリアの永久凍土が溶け、人類にとって未知のウイルスが放出されるという内容のものがありませんでした。未知のウイルスであってもその全てが人類に悪影響を及ぼすわけではなく、心配する必要はないとの見解でしたが、林業大学校への勤務を命じられたこともあり、改めて森林の持つ機能について考えさせられるきっかけになりました。

このようなこともあって、赤沢美林での校外研修に同行させていただき、奥千本で真つすぐに立っている神々しいほどの木々に触れ、代々続いてきた伊勢神宮の式年遷宮について説明を受けた際には、私たちが守り、育てていくべきものの一つが見えたような気がしました。

本校で学ぶ学生の皆さんは、学びたい内容が一人ひとり違うのでしようが、二年間という長いようで短い勉学の期間で、自分を守り、育てるべきものは何なのかを見つけていって欲しいと思います。そしていつか私たちと同じように子を持つ親となった時、この地で学んだことが人生の糧となっていることを期待しています。

(か)



■事務局 長野県林業大学校内
〒397-0002
長野県木曽郡木曽町新開4385-1
TEL 0264-23-2321
FAX 0264-21-1058